プレッシオのインサーター搭載丁合機

NR－X

新聞配達業務の支えとして100点満点

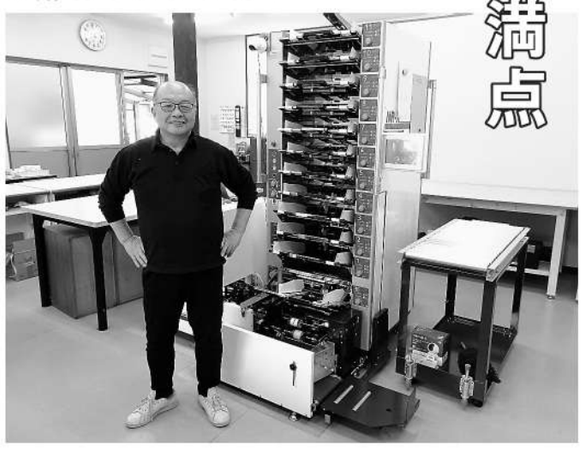
中日新聞・産経新聞 森野新聞店（滋賀県彦根市）

森野　寛志所長

プレッシオのインサーター搭載丁合機「NR－X」

中日新聞・産経新聞の森野新聞店（滋賀県彦根市）の森野寛志所長は、「日々の新聞配達業務を支える機械として、100点」とプレッシオのインサーター搭載丁合機「NR－X」に太鼓判を押す。

同店は、NR－Xの前機種となるインサーター搭載丁合機「TZS－MRI」やNR－Xのプロトタイプなど同社のインサーター搭載丁合機をいち早く業務に取り入れてきた。森野所長は「MRIやプロトタイプを使用して、作業上の問題点やトラブルの原因などを担当者に何度も指摘した」と振り返る。


森野寛志所長

2年の開発期間を経て、NR－Xは、販売店の負担軽減、労働環境の改善を目指し、使いやすさと安定性が特長。設置性にも優れ、約1・5畳のスペースがあれば設置できるため、幅広い販売店に導入機会がある。

森野所長は「新聞購読部数が減少し、販売店は大小の2極化が進む。特に小規模店はワンオペ作業が求められがちなため、NR－Xが支えになる」と力を込める。

中日新聞・産経新聞の森野新聞店（滋賀県彦根市）

販売店が行う新聞にチラシを折り込む一連の作業は、チラシの枚数や質、湿度によって微調整が必要な繊細なもの。その調整は長年の勘に頼るところが多く、誰にでもできるものではない。

NR－Xの紙サバキ調整機構は、なめらかに動くダイヤルのため、微調整しやすい。森野所長は「当初はカチカチと動くダイヤルで調整しきれない部分があった。細かい調整は操作する人にゆだねてほしいと依頼し、改良された」と話す。

店舗によっては、作業者は毎日変わるため、人のスキルによる仕上がりのバラつきが出てしまいがち。チラシの挿入ミスや新聞の折れなどは、購読者からのクレームの原因になることもある。

森野所長は「人の感性は、熟練度や経験、知識、発想力などさまざまな要素に左右される。NR－Xは、技術や経験はさほど影響せず、人を選ばず作業ができる」と話す。

同店では、NR－X導入以降、コストカットの効果を実感したという。「1人雇うこととNR－X導入のコストは変わらない。NR－Xは体調や天候などに左右されず常に最高のパフォーマンスをしてくれる」と森野所長。

NR－Xの作業スピードで人の手が空いた分、別の業務を行うことができるようにもなった。

森野所長は「作業者が高齢化する今、手作業を自慢する時代は終わった」と話す。過渡期にある新聞販売業界。設置性と安定性が向上したNR－Xの作業効率と仕上がりの美しさは、販売店が長く運営を続ける中でなくてはならない存在になる。